

宝本エピソード

鹿児島県立図書館 企画展示「宝本エピソード展」より

展示期間:平成30年10月26日(金)～平成30年11月25日(日)

募集期間:平成30年6月20日(火)～平成30年9月7日(金)

募集対象:県民一般(幼稚園, 学校, 公立図書館を通じて募集)

(一般応募の部より)

母		子	【エピソード】 
書名	パパとママのたからもの		この本は、ぼくが3さいのときに、おかあさんがプレゼントしてくれました。
著者名	サム・マクブラットニイ		ぼくは、おとうとがうまれて、おかあさんに「ぼくとおとうとどっちが大好き?」とよく聞いていたようです。
絵	アニタ・ジエラーム		この本は、3びきの子ぐまが、パパとママにだれが1ばん好きなのか聞きます。そして、パパとママは、どの子ぐまも1ばんだと言います。この本を読むと、大好きなおとうとがうまれてきたことも思い出すので、宝本です。
訳	小川仁央		
出版社名	評論社		
母		子	【エピソード】 
書名	ちいさいおうち		「ちいさいおうち」は、わたしが生まれる前から家にありました。どうしてかというと、お母さんが大好きな本だからです。お母さんは、小学二年生の時、学校の図書室でこの本を借りて、何度も何度も読んだそうです。わたしにも、すきになってほしくて、ねる前に読み聞かせをしてくれました。わたしは、表紙の「ちいさいおうち」がわらっているように見えるのが大好きです。
著者名	バージニア・リー・パー		
訳	いしいももこ		
出版社名	岩波書店		
母		子	【エピソード】 
書名	おつきさまこんばんは		「おつきさまこんばんは」は、長男が2歳になった頃、町の図書館で借りて、とても気に入った絵本です。毎週のように借りては返し、借りては返しを繰り返しました。「ここまで好きなら買おう!」ときめて購入。それからは、毎日のように読み、息子もまるまる暗記するほどになりました。保育園でも、暗記した文章を先生に聞かせていたそうです。6歳になった長男は、今でも絵本を見なくても覚えていて、音読できます。今では、弟も妹も大好きになり、我が家にとって大切な「宝本」になりました。
著者名	林 明子		
出版社名	福音館書店		

父



子

書名 しょうぼうじどうしゃしふた
 著者名 渡辺茂男
 絵 山本忠敬
 出版社名 福音館書店

【エピソード】

当時、消防車が大好きだった長男（2歳）に、保育園の先生からプレゼントしていただいた本です。息子への読み聞かせなど、照れくさくて、妻に任せきりの私でしたが、この本はどうしても私に読んでもらわないと気がすまないらしく、いつも寝る前に持ってきていました。毎日寝るまで、2度も3度も読んだ本です。半人前の扱いを受けていたしふたが、活躍する姿を息子と二人で爽快な気分で読んでいました。

私に読み聞かせの大切さを教えてくれた本です。

母



子

書名 はらぺこあおむし
 著者名 エリック・カール
 訳 もりひさし
 出版社名 偕成社

【エピソード】

この本は、私がおさない頃に母が読んでくれた本です。絵がかわいらしく、ストーリーもおもしろかったので、すぐに私のお気に入りの本になりました。

母が何度も読んでくれたので、まだ字が読めない私でもストーリーを覚えて、母が読む前に言えるくらいになっていたそうです。今でも少し破けて古くなってしまった本を見ると、懐かしく感じます。私も将来、子どもに読んであげたいです。

父



子

書名 ぐりとぐらとくるりくら
 著者名 なかがわりえこ
 絵 やまわきゆりこ
 出版社名 福音館書店

【エピソード】

このえ本は、お父さんが子どものときによんでいた本です。

おばあちゃんがあそびにきてくれたときに、わたしにくれました。

お父さんもよんでいたんだなと思いました。お父さんがだいじにしていたので、わたしもだいじによみたいと思います。

母



子

書名 スーホの白い馬
 モンゴル民話
 再話 大塚勇三
 画 赤羽末吉
 出版社名 福音館書店

【エピソード】

本の大好きな長女が幼稚園の頃、毎晩読み聞かせをしていた時期に出会った本です。初めて読んで聞かせた時、スーホと白い馬の絆に胸がいっぱいになり、黙ってしまった私を見て娘がオロオロと心配していた様子をなつかしく思い出します。その後も何度も読み、小学校の教科書にのっていると娘が読んでくれるようになりました。今では、下の二人の弟も小学生になり、「ママの好きな本」と音読の時に選んでいます。

ずっと大切にしたい親子の宝本になりました。

私



書名 こんとあき
著者名 林 明子
出版社名 福音館書店

【エピソード】

この本は、私が小さかった時に買ってもらった本です。
この本に出てくる主人公の「こん」というきつねの人形は、私が大事にしている人形に似ていて、今でもとっても大事にしています。
「あき」という女の子の成長を見守る「こん」の優しい所を、自分が成長するにつれてたくさん見つけることができました。
私にも、5歳年下の妹がいるので、「こん」の「あき」に対する対応を真似て、自慢できるよいお姉ちゃんになりたいです。

母



書名 しろくまちゃんのほっとけーき
著者名 森比左志
絵 わかやまけん
出版社名 こぐま社

子

【エピソード】

わたしは、この絵本が大好きです。小さい頃、よく母に読んでもらいました。読んでもらったあとは、この本に出てくるしろくまちゃんのように、わたしと母でホットケーキを作りました。わたしは、ホットケーキのこなをぐるぐるまぜる係でした。ホットケーキをやくと、絵本のようにぷつぷつしてきます。まるで、生き物みたいです。ひっくり返す時は、「うまくできるかな。」と少しドキドキしていました。できあがったホットケーキは、お兄ちゃんといっしょに食べました。
この絵本を読むと、ホットケーキを作って家族と食べたくくなります。そして、心がほっこりする絵本です。

母



書名 大どろぼう ホツエンプロッツ
著者名 オトフリート・プロイスラー
訳 中村浩三
出版社名 偕成社

子

【エピソード】

「大どろぼう」ときいたとき、とてもわくわくしませんか。
母のすすめで読んでみたところ、ページをめくる手が止まりませんでした。大人でも子どもでも楽しめる本で、母と一緒に読みました。
絵がとても個性的で見ていても楽しく、そこまで長くもない、読みやすい本です。作者は外国人なので、読んでいて文化の違いもおもしろいと感じました。また、いろいろな発想で、予想がつかない展開です。
この本を読んで、人と関わるすばらしさ、様々な方向からの発想力を学びました。母と私だけでなく、家族ぐるみで大好きな本です。

母



書名 ちょっとだけ
著者名 瀧村有子
絵 鈴木永子
出版社名 福音館書店

子

【エピソード】

私が2歳の時、妹が産まれました。家族みんなが喜んだそうです。私は、少ししか覚えていませんが、産まれたばかりの妹をうれしそうにだっこする私の写真やビデオをたくさんみて、すごくうれしかったことをなんとなく覚えていますが、でも、それまで、母を独り占めできていたのに、妹に母を半分とられたような気持ちになった私は、すぐに泣いたり、ものすごくわがママを言ったりするようになったそうです。そんな時、母は決まってこの本を読んでくれたそうです。そして必ず、母はぎゅっとだきしめてくれます。今でも時々この本を読んでもらっています。そして、必ずぎゅうっとだきしめてもらいます。

わたし



書名 くまのこうちようせんせい
著者名 こんのひとみ
絵 いもとようこ
出版社名 金の星社

【エピソード】

私は、この本にとっても勇気をもらいました。
私は、3年生の時、初めて日直をして、みんなを日直さんがまとめ、授業を進めないといけない時、とてもきんちょうしていました。そのとき、この本に出てくるひつじくんとくまのこうちようせんせいにせなかをおされました。
だから、勇気が出て大きな声で進めたり、みんなをまとめたりすることができました。だからこの本にとっても感謝しています。
私は、この本こそ私の一番の「宝本」です。

私



書名 君の臍臓をたべたい
著者名 住野よる
出版社名 双葉社

父

【エピソード】

私は、この「君の臍臓をたべたい」という本をきっかけに、父と会話が弾むようになりました。
父が「この本おもしろいのかなあ……。」と気になっていたのので、「私が持っているから、貸してあげる。」というのが最初でした。読み終わると「あの場面は、〇〇だった。」など、お互い感想を話し合うようになり、気軽に話せるようになりました。

母



書名 11ぴきのねことぶた
著者名 馬場のぼる
出版社名 こぐま社

子

【エピソード】

親子読書の会での読み聞かせ用の本で息子が選んだ本です。息子（当時7歳）と一緒に、一生懸命読み聞かせの練習をしました。このお話は、とても面白くて、時々笑いながら読んでいたので、読み聞かせ本番どうかと心配でしたが……。やはり本番中、ブタさんのところで笑ってしまい、それを聞いていた他の友達も笑ってしまいました。読み聞かせでは、途中で笑ってしまいましたが、とても心に残っている本のように、今でもリビングに飾ってあります。

母



書名 びりっかすの神さま
著者名 岡田 淳
出版社名 偕成社

子

【エピソード】

息子が学校から帰るなり、「今日、おもしろい本見つけてきたんだあ。」と開いた表紙を見て、私はびっくり！！何と、その本は、私が息子と同じ小学校4年生の時に借りて大好きになり、読書感想文まで書いた本だったのです。母にそのことを話すと、「あら……、これでしょう！？」と、当時私の書いた感想文を引っ張り出してくれました。「びりでも良い。人と競争するより、一番をとることより、自分の全力を出すことが大切なのだ！と、この本が教えてくれました……。」と、小学生ながらに、熱い思いがつつられていました。ちょっぴり怠け心が湧いてしまった時、「びりっかすの神さまがみているよ〜。」それが、私と息子の合い言葉です。

(団体取組の部より)

いせい図書館「家読カード」5月

()年 ()月 ()日

①家読をした日	くわ月()日()日	
②家読をした本	(著・編) 完結 物語・夢遊の先生・箱文母・その他	
③本の題名	きんぎょくぼんちゅう	
④本の著者	著者 (本を著した方)	出版社
⑤本の著者の名前	名前	「本に著した方」
⑥本の著者の職業	職業	
⑦本の著者の年齢	年齢	
⑧本の著者の性別	性別	
⑨本の著者の国籍	国籍	
⑩本の著者の出身地	出身地	
⑪本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
⑫本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
⑬本の著者の好きな場面	好きな場面	
⑭本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
⑮本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
⑯本の著者の好きな場面	好きな場面	
⑰本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
⑱本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
⑲本の著者の好きな場面	好きな場面	
⑳本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㉑本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㉒本の著者の好きな場面	好きな場面	
㉓本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㉔本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㉕本の著者の好きな場面	好きな場面	
㉖本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㉗本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㉘本の著者の好きな場面	好きな場面	
㉙本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㉚本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㉛本の著者の好きな場面	好きな場面	
㉜本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㉝本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㉞本の著者の好きな場面	好きな場面	
㉟本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㊱本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㊲本の著者の好きな場面	好きな場面	
㊳本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㊴本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㊵本の著者の好きな場面	好きな場面	
㊶本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㊷本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㊸本の著者の好きな場面	好きな場面	
㊹本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㊺本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㊻本の著者の好きな場面	好きな場面	
㊼本の著者の好きな言葉	好きな言葉	
㊽本の著者の好きな登場人物	好きな登場人物	
㊾本の著者の好きな場面	好きな場面	
㊿本の著者の好きな言葉	好きな言葉	

鹿児島市立東桜島小学校では、月に一回「親子で一緒に本を読み、読んだ本について話をしてみよう」という「家読(うちどく)」の取組を行っています。「家読」では、親子で同じ一冊の本を読んでいる家庭が多いようです。本の中の好きな言葉や好きな登場人物、「家読」をした感想を記入してもらう中で、いろいろな会話が生まれているようです。月に一度、一緒に読書をし、互いに考えを話し合う。そのような時間を育むことで、子どもたちが読書の時間を楽しむきっかけになればいいなと願っています。

[市町村] 鹿児島市 [所属名] 東桜島小学校



- 大浦図書館では、アニメーションを取り入れたおはなし会の開催
 - 金峰図書館では、国際交流員の方による中国語のおはなし会の開催
 - 坊津図書館では、本を借りてくださった方に手づくりガチャを回してもらい、プレゼントが当たるイベントの開催
- その他にも、全館「宝本エピソード」の募集、おはなし会、ミニイベント等、親子で楽しんでもらえるような図書館づくりを心がけています。

[市町村] 南さつま市 [所属名] 南さつま市立図書館



出水市立大川内中学校では、「親子読書リレー」を行っています。一冊の本を親も子も読み、感想を書いて次の親子に渡します。本は、学年・学級ごとに異なっています。親子で同じ本の感想を共有でき、他の人の感想も見ることができるので楽しく読書を進めています。

また、大川内中学校には「ハッピー☆クローバー」という文芸サークルがあり、読み聞かせをしたり、台本づくりから行うペープサート、紙芝居などを制作したりしています。

一学期は、朝の読書の時間に各学級に行って読み聞かせを行いました。夏休みには、ボランティアとして、出水市の七か月児健診の会場と、二歳児健診の会場に伺い、健診に来られていた親子に読み聞かせを行いました。現在は、11月に出水市である「わくわくおはなしフェスタ」に向けて、ペープサートを制作しています。

〔市町村〕 出水市

〔所属名〕 大川内中学校



中学校の先生が小学生に読み聞かせ



中学生が小学生に読み聞かせ



校内親子読書会の方の読み聞かせ



中学生と読み聞かせの感想を語り合う

出水市立鶴荘学園では、毎月第4木曜日に、小中一貫教育を行っている本校ならではの「読書集会」を行っています。

この集会では、中学生が小学生に読み聞かせをしたり、小学生が中学生に読み聞かせをしたりします。ある日の読書集会では、小学生が中学生に『地獄 絵本 千葉県安房郡三芳村延命寺所蔵』白仁成昭、宮次男/構成(風涛社)の読み聞かせを行いました。小学生の真に迫る読み聞かせに、中学生はおどおどしながら聞き入っていました。また、ある日の読書集会では、小学生と中学生と一緒に百人一首大会を行いました。ここでは、小学生も中学生も関係なく、みんな真剣勝負でした。一枚取ったり、取られたりするたびに、会場に大きな歓声やため息が響きました。

また、親子読書活動推進の一つとして、「家読読書リレー」に取り組んでいます。この活動は、児童生徒や保護者がお薦めする本をリレー形式で読み、毎週木曜日に感想を記入したカードと共に次の人へつないでいく取組です。それぞれが大切にしている「宝本」を通して、読書の輪が広がっていきます。

このように、鶴荘学園では本校の特色を生かした読書活動に取り組んでいます。

〔市町村〕 出水市

〔所属名〕 鶴荘学園



大原小学校では、毎月2回、読書タイムがあります。1回は、児童によるおすすめの本の紹介、もう1回は、先生方による読み聞かせや本の紹介、本とのエピソードを語る時間になっています。

今年度から大原読書週間を各月に設けました。各学年で読む課題図書も決めてあります。

図書委員会は、読書タイムの活動の様子を新聞にまとめたり、読書タイムの司会をしたり、おすすめの本の紹介記事を書く活動をしたりしています。

司書補が兼務なので、みんなで協力して楽しく運営をしています。

[市町村] 錦江町

[所属名] 大原小学校

